

国立情報学研究所ニュース 第1号



学術総合センター竣工記念式典（3月16日）



国立情報学研究所の創設

国立情報学研究所は、平成12年4月1日、情報学に関する総合研究並びに学術情報の流通のための先進的な基盤の開発及び整備を行うことを目的とする大学共同利用機関として創設されました。

国立情報学研究所では、長期的な展望の下に、ソフトウェア、情報基盤、情報メディア等の情報関連分野の研究開発を基礎から応用まで幅広くカバーするとともに、全国の大学、研究機関や民間企業の研究所との連携・協力を重視し、情報学研究を総合的に進めることを目指しています。また、先進的な学術情報基盤を構築・提供することにより、あらゆる学問分野の発展と産業・文化・国民生活の向上に貢献することを目指しています。

このように、国立情報学研究所は、情報学に関する研究活動と先進的な学術情報基盤に関する開発・事業をいわば車の両輪のように一体的に推進することを大

きな特色としています。このため、これまで学術情報センターが行ってきた、学術情報ネットワークや学術情報サービスに関する諸事業は、国立情報学研究所が継承して実施しています。

また、国立情報学研究所が設置されている学術総合センターには、一橋大学大学院国際企業戦略研究科、国立学校財務センター及び大学評価・学位授与機構の計4機関が入居し、各機関が有する学術に関する諸機能を総合的に発揮することにより、高度の知的創造拠点の形成を目指しています。

今日の世界的な情報通信技術の進歩は、大きな可能性と同時に様々な課題を内包しています。国立情報学研究所では、新たな「情報の世紀」に向けて、時代の要請に応えるべく、学術総合センターを拠点として、研究と事業の両面で特色ある活動を展開したいと考えています。
(広報調査課)

情報学研究の新たな展開を目指して



国立情報学研究所 所長
猪瀬 博

猪瀬 博(いのせ ひろし)

1948年東京大学第二工学部卒業。工学博士。東京大学教授、同工学部長を経て、1987年から学術情報センター所長、2000年4月から現職。専門分野は情報通信工学、科学技術政策。情報処理学会、電子情報通信学会の会長を歴任したほか、全米科学アカデミー、スウェーデン王立理工学アカデミー及び英国王立工学アカデミー等の外国人会員。マルコニ国際学術賞(1976年)、日本学士院賞(1979年)、文化勲賞(1991年)等を受賞。

情報通信技術の目覚ましい発展にともない、社会経済活動のあらゆる側面において情報依存性が急速に高まっております。このような状況に積極的に対処するため、政府におかれては内閣総理大臣を本部長とする高度情報通信社会推進本部を平成6年に設置し、電子商取引の推進、学術研究を含む公共分野の情報化、情報リテラシーの向上、ネットワークインフラの整備、情報等に関する研究の推進、ハイテク犯罪対策、ソフトの供給、相互運用性の確保、国際的なイニシアティブの発揮などを基本方針として活発に取り組んでこられました。平成12年からは、これはIT戦略会議に改組され、さらなる活動が期待されております。

社会経済活動を先導する使命を担っている学術研究の分野では、情報依存性は殊の外、高度なものとなっており、このことは上記の基本方針においても明確に認識されております。学術研究の情報化、ネットワークインフラの整備、情報に関する研究の推進などが、主要課題として掲げられているのはその証左といえましょう。学界においてもその実現は強く要望されており、平成9年には日本学術会議勧告「計算機科学研究の推進について」、平成10年には学術審議会建議「情報学研究の推進について」が相次いで出されました。

文部省ではこれを踏まえ審議を重ねた結果、学術情報センターを母体とする改組・拡充によって、大学共同利用機関として、情報研究の中核的研究機関を設立するという方針を決定しました。この方針にもとづき平成12年4月に開設されたのが、国立情報学研究所であります。この研究所は、情報に関する総合的な研究・開発、学術情報基盤の開発・整備、学術情報の活用に係る業務、情報分野の専門家の育成に貢献することを目的としております。昭和61年に大学共同利用機関として設立された学術情報センターの諸機能は、これによって大幅に拡充・継承され、将来へ向けての

飛躍的發展が可能となりました。

すなわち第1に、広く情報学(Informatics)を研究対象とすることにより、基礎理論から社会的応用に至る研究を総合的かつ学際的に展開できるようになりました。特に情報学の基礎理論やソフトウェア研究などを強化するとともに、情報制度論など人文社会科学の関連分野にも力点をおくことが可能になりました。

第2に、学術研究上必須の情報基盤としては、ネットワーク、コンテンツ及びアプリケーションのすべての面において高度の先端性を備えたものが要求されますが、これに応えることができる多彩な研究開発を展開するとともに、その成果を速やかに学術情報基盤の整備・充実に反映させることが可能となりました。これら両面の活動をいわば車の両輪として推進するために、実証研究センターと情報学資源研究センターが新設されております。学術情報センターが全国の図書館の御協力を得て構築してきた目録所在情報データベースは、すでに世界有数の書誌情報データベースとなっておりますが、その発展と利用をさらに推進するとともに、学協会や図書館との緊密な連繋のもとに、電子図書館サービスの一層の拡充と、全文検索機能の高度化を図る上でも、これらのセンターは大きな役割を果たすでしょう。

第3に、情報学に関する人材養成が緊急の課題であることから、これまでの東京大学や図書館情報大学の大学院との連繋を一層強化するとともに、大学院組織の新設を実現すること、国内外の産官学の研究機関の協力を得て、共同研究・共同利用を一層積極的に推進すること、なども可能となるでしょう。

国立情報学研究所の設置に、多大の御理解と御盡力をいただいた文部省はじめ関係各位に、心からお礼申し上げますとともに、引き続き御指導、御支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

国立情報学研究所が目指す研究活動



国立情報学研究所 研究総主幹 小野 欽司

小野 欽司（おの きんじ）

1962年東京大学理学部卒業、1972年スタンフォード大学大学院修士課程修了。工学博士。国際電信電話株式会社研究所所長、学術情報センター教授/研究開発部長を経て、2000年4月から現職。専門分野は情報工学。科学技術庁長官研究功績者表彰（1984年）、電子情報通信学会業績賞（1992年）、IEEE（米国電気電子学会）フェロー（1994年）等を受賞。

インターネットに代表される情報技術の進展により、社会経済活動の変革は目覚ましいスピードで進んでおり、高度情報化社会の実現は目前に迫っています。

物質中心の社会から、情報が主体的な役割を果たす社会になり、我が国においても情報に関する基盤的・総合的な研究体制の確立は緊急かつ重要な課題となっています。

国立情報学研究所は、我が国唯一の情報学を研究対象とした、大学共同利用の研究機関として2000年4月1日に発足しました。

私がこの前身である学術情報センターに着任した頃、米国のゴア副大統領がNII（National Information Infrastructure）構想を掲げて登場し、これが経済活性化の原動力となり、その結果シリコンバレーを中心にして米国が空前の経済的な活況を呈していることは周知の事実です。

情報化が急速に進展しつつある我が国においても学術研究の発展を支え、かつ我が国の産業、社会の再生に寄与することが極めて重要です。

私は、日本学会会議における情報学研究連絡会や文部省の学術審議会の専門委員として情報研究の議論に参加して、勧告や建議の作成に関与してきましたので、本研究所の設立には非常に感慨深いものがあります。

国立情報学研究所が対象としている情報学（Informatics）は、これまで計算の側面を中心として発展してきた学問体系であるコンピューターサイエンスや情報工学から、今後は生命科学や人文社会科学までを含む情報に関する諸問題を広範かつ総合的に取り扱う新しい学問分野です。情報学は、あらゆる学問分野の基盤となる学問であるとともに、他の学問分野に働きかけ新しい研究課題や研究手法を生み出し、さらには、その応用を通じて、産業・文化・教育・生活等

の多方面に大きく貢献いたします。

国立情報学研究所は使命として、総合的な情報学の確立、情報に関する基礎から実証までの研究、情報基盤の発展、などの学術的、社会的貢献を掲げています。

このような考えの下で研究分野として、情報学の基礎から情報基盤、ソフトウェア、情報メディア、知能システム、人間・社会情報、学術研究情報についての研究に至る7つの領域の研究系からなる基幹的研究分野、新しい概念を応用や開発に結び付けたり、さらに分野横断的な研究や学術情報基盤において実践する附属施設として2つの研究センターを設置しています。他に研究支援や、情報基盤の構築に関わる組織を整備し、長期的な視点に立って情報に関する基礎的・基盤的研究、プロジェクト型研究の推進、事業開発との連携、国際共同研究の推進を重視した研究を進めてまいります。

21世紀は、科学技術の発展が真に人類社会に貢献できる仕組みを作ることが重要です。情報学の研究によりもたらされる「知識」の創造と活用が、今後飛躍的な進展が予想される「バイオテクノロジー」などとともに、社会生活、経済活動にはかり知れない変革をもたらすことになるでしょう。

以上述べましたように情報に関する総合的な研究を推進し、我が国の学術情報基盤を支えるため、国立情報学研究所は21世紀における新たな展開を目指し努力しています。引き続き皆様の御支援・御協力をお願い申し上げます。

国立情報学研究所における開発・事業



国立情報学研究所 開発・事業部長 羽鳥 光俊

羽鳥 光俊（はとり みつとし）

1968年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。工学博士。東京大学工学部教授、学術情報センター教授を経て、2000年4月から現職（開発・事業部長/情報メディア研究系研究主幹）。専門分野は電気通信工学、放送工学。テレビジョン学会副会長、映像情報メディア学会会長を歴任。郵政大臣表彰電波功労賞（1995年）、IEEE フェロー（2000年）、NHK放送文化賞（2000年）等を受賞。

21世紀を目前にした今日、先進諸国では情報分野に積極的な研究投資を行い、高度情報通信社会を実現するために、情報学研究を一層推進することが緊急の課題となっています。

我が国においても、あらゆる学問分野の発展の基盤として、基礎から応用まで幅広い視野で情報学研究を一層発展させ、ソフトウェア、情報基盤、情報メディアなどの情報関連分野の研究を中心とした学術研究活動を飛躍的に強化することが急務とされております。

国立情報学研究所は、情報学分野の研究の推進を図るとともに、先進的な学術情報基盤を構築提供することによって、あらゆる学問分野の発展と産業・文化・国民生活の向上に大きく貢献することを目的に、学術情報センターを母体として創設されました。

本研究所において、情報学研究の成果は、学術研究を推進する上で必要不可欠な環境である学術情報基盤を一層効果的なものにするため、実証的研究活動と有機的に結び付くと同時に、学術情報基盤の構築・運用から得られる情報が情報学研究における新たな課題や動機を発見する場としての機能を有しております。換言すれば、情報学研究から実証的研究活動を経て学術情報基盤の整備・運用に至り、学術情報基盤の整備・運用が情報学研究の萌芽を促すという循環を形成しております。これが本研究所の特色であり、強化発展させるべき独自性と考えています。

開発・事業部は、研究組織（研究系、研究施設）との密接な連携・協力の下に、研究者が学術研究基盤の整備に参画できる組織・体制を構築し、得られた研究成果を実証的に適用・実用化することにより、我が国の学術情報基盤の整備・強化に貢献するため、研究組織における研究活動の技術的・事務的支援及び学術情報の流通のための先端的な基盤（情報資源やネットワーク環境）の開発と整備を行うことを目的としてい

ます。

開発・事業部を中心として、現在学術情報基盤の提供に関する以下の事業を展開しております。

- ・ 目録所在情報サービス
- ・ 情報検索サービス
- ・ 電子図書館サービス
- ・ オンライン・ジャーナル編集・出版プロジェクト
- ・ 学術情報ネットワーク
- ・ 計算機システム
- ・ 事業の国際展開
- ・ 教育研修・成果普及活動

これらの事業は今後も、アプリケーションの機能強化、コンテンツの拡充、ネットワークの増強、ネットワークセキュリティの確保、国際的な学術情報流通の促進、新たな事業開発等、学術研究基盤の開発及び整備を推進していきます。

今後、情報の分野において大きな進展が期待されますが、当研究所が情報学研究と学術情報流通の中心的機関として担うべき役割もさらに重要性を増すものと考えられます。

このような時代の流れに適切に対応した、我が国の学術の発展を支える情報基盤提供の重責を果たすべく、研究系及び研究施設との連携を図りながら今後一層の努力を重ねて、世界に誇る成果を達成するとともに、日本のそして世界の学術の発展に貢献するため、教職員一同鋭意努力してまいりますので、御指導と御支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

Papillon 国際セミナーの開催 - 日仏オンライン電子辞書開発プロジェクト -

インターネット上で日仏のオンライン電子辞書を開発するプロジェクトについてのセミナー「Papillon (パピヨン) 国際セミナー」が、フランス大使館と国立情報学研究所の共催で8月10日・11日に国立情報学研究所のセミナー室で開催されました。

このプロジェクトは、フランス大使館科学技術部の支援により科学技術アタッシュ François Brown de Colstoun (フランソワ・ブラウン・ド・コルストン) 博士が責任者となって、フランスのグルノーブル Joseph Fourier (ジョセフ・フーリエ) 大学の CLIPS (言語伝達と人間・システム対話) 研究所、モンペリエ大学 LIRMM (モンペリエ情報・ロボット・マイクロエレクトロニクス) 研究所及び国立情報学研究所を主要な日仏の研究グループとして、共同研究を開始することが合意されたものです。

セミナーには、フランスから12名、フランス大使館から4名、国立情報学研究所から5名、その他3名が出席し、出席者の自己紹介の後、本プロジェクトの推進責任者である Joseph Fourier 大学の E. Planas (プラナス) 博士のプロジェクト概要挨拶、国立情報学研究所の小野研究総主幹の基調講演に続いて、プロ



ジェクトの技術課題と具体的推進方策が議論されました。このプロジェクトは、辞書作成に協力する日仏他の全てのボランティアに対してオープンとすることが合意されました。

第2回の Papillon 国際セミナーは、フランスのグルノーブルで2001年7月に開催されます。

(ソフトウェア研究系助教授 Frederic Andres
フレデリック・アンドレス)

外国人研究者の紹介：フランソワ・パラディ博士

G'day! ゴダイ! (訳注：オーストラリア風の挨拶)
この記事を書くようにいわれ、外国人研究者として国立情報学研究所 (NII) に来てもう4か月も経ったことに気がつきました。私はオーストラリアの国立研究機関 CSIRO (連邦科学・産業研究機構) からきました。ロス・ウィルキンソン博士のグループで、電子ドキュメント技術の研究をしています。NII と同様、我々も国際共同研究に関心があり、今回の滞在目的の1つは、共同研究の扉を開くことです。

私の専門は情報検索とテキスト処理で、現在の研究上の関心は、バーチャルドキュメントと「カスタマイズ検索・提供」、すなわち個々の利用者に応じて、Web上の複数ドキュメントから必要な部分を取り出してひとつの文書へ再構成して提供することが中心です。特に、検索と提供の高度化のために文書の論理構造と談話構造を用いています。

滞在中は、神門典子助教授とロンドンのクィーン・メアリー・カレッジとの共同研究として、「構造化された」テスト・コレクションの構築、すなわちハイパーテキストと文書の論理構造の利用について研究しています。いままで旅行案内やソフトウェアマニュアルなどを対象としてシステムを構築しましたが、新たな応用分野としてWeb上の美術関係の情報に着目し、協力してくださる美術館関係者と連絡を取っています。また、高須淳宏助教授とソフトウェアライブラリ



プロジェクトについて話し、構造の自動マークアップに関する研究も開始しました。

10月末に帰国予定なので、滞在中もそろそろ終わりです。この機会に、滞在を受入れてくれたNIIと神門助教授、滞在を実現したのみならず楽しいものにしてくれたNIIの皆さんに感謝申し上げたいと思います。カラオケの楽しい思い出とともにオーストラリアに戻ることでしょ！

(Dr. François Paradis フランソワ・パラディ博士
原文英語)

パラディ博士は、オーストラリア政府の派遣により、外国人研究者として、本年5月1日から10月31日まで国立情報学研究所で研究を行っています。

オンライン学術用語集のサービス開始

国立情報学研究所では、平成12年7月12日から「オンライン学術用語集」のサービスを開始しました。

学術研究の成果を広く流通させ、正しく評価・検証等が行われるためには、用語、特に専門的用語(学術用語)の意味の定義や用法等について、研究者間で共通の認識が存在する必要があります。このため、各学問分野で学術用語の標準化が進められており、その成果は各分野の「学術用語集」として刊行されています。

「オンライン学術用語集」は、著作権者である文部省及び各学協会の許諾を得て、「学術用語集」に収録されている学術用語をインターネットを通じて検索できるようにしたものです。その概要は次のとおりです。

1. サービスの名称

日本語名：オンライン学術用語集
英語名：Online Scientific Terms
略称：NACSIS-Sciterm

2. 利用方法

WWWブラウザから利用できます。
(<http://sciterm.nacsis.ac.jp/>)
検索対象としたい用語集の分野(編名)を選択



し、検索語を入力すると、該当する用語の情報が表示されます。

3. 収録項目

用語(和・ローマ字読み・カナ読み・洋) 品詞、分野、参照先用語、備考

4. 利用時間

原則として1日24時間通年サービスです。なお、システム保守等のためにサービスを停止することがあります。

(アプリケーション課)

北京日本学研究中心図書資料館の情報化支援

国立情報学研究所では、中国との学術情報交流プロジェクトの一環として、国際交流基金との協力により、平成10年度から北京日本学研究中心図書資料館の情報化支援を行っています。

本年度は、6月18日から25日の日程で国立情報学研究所から高野茂開発・事業部次長ほか3名の職員が同センターを訪問し、図書資料館のシステム稼働やデータ入力などに関する指導・助言等を行いました。これに対して、同センターからは、7月17日から29日の日程で銭軍強、李琳、袁紅の3氏が訪日し、7月18日から25日まで国立情報学研究所においてNACSIS-CAT等に関する研修を受けました。引き続き7月26日から28日まで佐賀大学附属図書館で研修を受けました。

また、同時期に訪日していた同センターの厳安生主任と徐一平副主任が国立情報学研究所を訪問し、3名の研修生とともに、7月18日に猪瀬所長を表敬訪問したほか、7月25日に開催された「中国との学術情報交流プロジェクト会議」に出席しました。同センターは、中国における日本研究の中核的役割を担っており、このプロジェクトによる情報化支援を通じて、一層の機能強化が期待されています。

(広報調査課)



厳主任一行の所長表敬(7月18日)



国立情報学研究所における研修

国立情報学研究所見学会の開催

電子情報通信学会と科学技術館サイエンス友の会との共催による「科学実験教室」の一環として、「国立情報学研究所見学会」が8月22日(火)に開催されました。この見学会は、主に小・中学生を対象にした科学の啓発活動を目的に実施されたのもで、生徒と保護者を含めて20人の参加がありました。

今回の見学会では、「インターネットはどこでもドア」をテーマとして、国立情報学研究所実習室を会場に、研究所の教官及び職員が子供たちにインターネットの仕組みをわかりやすく解説しました。主な内容は次のとおりです。

国立情報学研究所についての紹介

小野欽司研究総主幹

インターネットの裏側

講師：相澤彰子助教授

インターネット上で情報を探するためのサーチエンジンの紹介や、コンピュータが情報を探し出す仕組みについて説明しました。

インターネットでお勉強

講師：井上智雄助手

インターネットで情報を送るためのHTML言語についての説明と、研究所が作成した「ILL 自学習得システム」を紹介しました。



インターネット体験コーナー

予め準備したリンク集によるホームページの表示や、サーチエンジンを使った検索・表示など、参加者が自由にインターネットを体験できる時間を用意しました。
(成果普及課)

軽井沢土曜懇談会の開催

国立情報学研究所国際高等セミナーハウスは、国際的な研究交流の場として、長野県軽井沢町に設置され、大学等による国際会議、各種セミナー及び研修等に利用されています。国立情報学研究所では、この国際高等セミナーハウスを会場に、軽井沢町の在住者等を対象とした「平成12年度軽井沢土曜懇談会」を開催しました。開催日、講師、演題は次のとおりです。

7月15日(土)

講師：猪瀬博 国立情報学研究所長

演題：知的存在感のある国を目指して

7月22日(土)

講師：大野公男 北海道情報大学長

演題：バーチャル・ユニバーシティと私

7月29日(土)

講師：手塚登久夫 東京芸術大学教授

演題：ぼくの制作ノートから

野外に設置した梹たちについて

9月2日(土)

講師：クリストファー・逢盟・ブレイズデル氏

演題：尺八オデッセイ

天の音色に魅せられて

9月9日(土)

講師：大津純子氏

演題：大津純子ヴァイオリン・コンサート

《移ろう音》

(成果普及課)



猪瀬所長が IEEE ミレニアム・メダル受賞

本研究所の猪瀬博所長が、IEEE : The Institute of Electrical and Electronics Engineers (米国電気電子学会)ミレニアム・メダルの受賞者の一人に選出されました。このメダルは、IEEEによるミレニアム記念の一環として、傘下の各協会の推薦に基づき、電気・電子工学の分野で顕著な功績のあった者に贈られたも

のです。猪瀬所長は、6月18日から22日まで開催されたIEEE国際通信会議(ICC)に出席し、メダルが贈呈されました。

なお、猪瀬所長は1994年にIEEEからアレクサンダー・グラハム・ベル・メダルを授与されています。(広報調査課)

羽鳥教授が NHK 放送文化賞ほか受賞

本研究所の羽鳥光俊教授(開発・事業部長/情報メディア研究系研究主幹)が、第51回日本放送協会放送文化賞を受賞しました。放送文化賞は、放送に貢献した者に贈られ、羽鳥教授の受賞理由は、「放送・通信技術研究における第一人者として数多くの研究を推進し、特にテレビ映像信号の高効率符号化等について先駆的研究を行うとともに、我が国のハイビジョン放送方式の確立に指導的な役割を果たすなど、衛星デジタル放送時代の放送技術の進展に貢献し、放送文化の向上に寄与」したことによるものです。

このほか、羽鳥教授には、映像情報メディア学会から功績賞(5月)、「電波の日」郵政大臣表彰(6月)、IEEEから5月に東京で開催された「移动通信コンファ



「第75周年放送記念日記念式典」で海老沢NHK会長(左)から放送文化賞を贈呈される羽鳥教授(右)
(写真提供: NHK放送技術研究所)

レンス」における全体議長として功労賞(9月)が贈られています。(広報調査課)

Information お知らせ

国立情報学研究所創設記念式典

平成12年10月6日(金) 学術総合センター(東京都千代田区一ツ橋)

DATABASE 2000 TOKYO への出展

平成12年10月18日(水)~20日(金) 東京国際フォーラム(東京都千代田区丸の内)

主催: 財団法人データベース振興センター、日本データベース協会

詳しくは<http://www.dbtokyo.com/> をご覧ください。

国立情報学研究所公開講演会

「情報学: 情報の新たな地平を目指して」をテーマに公開講演会を開催します。

西会場 平成12年11月8日(水) 国立京都国際会館(京都市左京区宝ヶ池)

東会場 平成12年11月22日(水) 学術総合センター 一橋記念講堂(東京都千代田区一ツ橋)

詳しくは<http://www.nii.ac.jp/hrd/HTML/Symp/index.html> をご覧ください。

マルチメディア高度情報通信システムシンポジウム

平成12年11月30(木)~12月1日(金) 学術総合センター 一橋記念講堂(東京都千代田区一ツ橋)

主催: 日本学術振興会未来開拓学術研究推進事業マルチメディア高度情報通信システム研究推進委員会

「日本情報の国際共有に関する研究」講演会

国際共同研究「日本情報の国際共有に関する研究」の一環として、ドイツ、カナダ、米国から図書館専門家を招聘して講演会を開催します。

東京講演会 平成12年12月1日(金) 学術総合センター(東京都千代田区一ツ橋)

京都講演会 平成12年12月4日(月) 京都大学附属図書館(京都市左京区吉田本町)

国立情報学研究所の研究・事業活動について詳しくはホームページもご覧ください。<http://www.nii.ac.jp/index-j.html>